

修学旅行プレゼンテスト(グループ)【生徒用・課題カード】

Class_____ No._____ Name_____

 **ゴール:** グループで役割分担し、写真を見せながら旅行先の魅力を2分で発表できる

場面 来年行く後輩のための「修学旅行プレゼン大会」。行き先の魅力を、写真(またはスライド3枚)とともに紹介せよ。

構成(4人で分担): ①つかみ+行き先紹介 ②見どころ(後置修飾で: a temple built 400 years ago...) ③食べ物・体験 ④まとめ+おすすめの一言
1人1回は必ず話す。スライドの文字は最小限(読み上げ禁止)。

準備 テストまでにすること(授業3回)

構成メモ→分担→スライド/写真準備→通しリハーサル2回(時間計測係を置く)。

本番 時間: 1グループ2分+質疑30秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	後置修飾・比較などの既習表現
流暢さ	止まらずに続けられたか(完璧でなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手への問いかけ・スライドの示し方・チームワーク

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	協働で情報を構成し、資料とともに聞き手に届ける力(プレゼンテーションの基礎)
なぜ必要か	社会に出て最も使う「複数人でのプレゼン」を、中学の集大成として経験させる。個人ルーブリック+グループボーナスの二層評価が、協働の中の個人の責任という現実的なテーマを評価の形で教える。

評価 ルーブリック(B列=評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 魅力が具体的に伝わり、質疑にも答えられた	B(2点)=評価規準 構成どおり2分で魅力が伝わった	C(1点) 内容が断片的・時間大幅超過/不足
正確さ	A(3点) 表現が幅広く正確	B(2点)=評価規準 誤りはあるが内容は通じる	C(1点) 通じない箇所が多い
流暢さ	A(3点) 全員が自分の言葉で話しボタンも滑らか	B(2点)=評価規準 全員が担当を話し切った	C(1点) 読み上げ・分担が崩れる
態度	A(3点) 視線・指し示し・問いかけで聞き手を巻きこむ	B(2点)=評価規準 聞き手に向けて発表できた	C(1点) 内輪向き

✓ C→Bの手立て: グループ評価と個人評価を分け、個人はB到達の再機会を(担当部分のみ再発表可)

運用 当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1グループ2分+質疑30秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2〜3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ グループテストは「フリーライダー問題」が最大の敵。個人ルーブリック(この表)とグループ+2点ボーナス(時間ぴったり・質疑対応)の二層にすると、全員が自分の12点を守りに来ます。

修学旅行プレゼンテスト(グループ)【採点記録シート】

実施日_____ クラス_____

記録 その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。